

## 令和5年度

### 奈良社会福祉院事業計画

#### 〔I〕基本方針(ねがいとねらい)

##### 1. 先達(先人)の訓え 「和を以って貴しと為す」

—本年度は創業・創立76周年—

社会福祉法改正案に見られるように社会福祉(法人)改革が声高に議論されるなか利用者の個別化が進み、多種多様で多岐にわたるニーズに高品質且つ安全性(セキュリティ)の高いサービスを適正敏速、多機能で応える事を目標に努力を重ねる。先進国中心に増大する経済不安と少子高齢化問題、更にロシア、中国等を中心とする強権政治と思想の重圧と増幅、後発国中心に急増する人口・人権問題、貧富格差問題、アラブ諸国発原油問題とイスラム国(?)を中心とする過激で複雑な宗教国益問題等々、国内では東日本大震災、原発事故の後処理等、又、頻発する自然災害によるダメージ等があり、加えて、一昨年、突如中国武漢で発生した新型コロナウイルス問題も感染は世界的に広がり依然として予断を許さない状況が続いているが、3月13日以降マスク着用は個人の判断に委ねられ、5月8日には第5類に引き下げられる等、今後の対応等にも苦慮することが予想される。更に、韓国、北朝鮮、中国、ロシア等近隣国から引き続き敗戦と歴史問題から来た領土・領海侵略や脅威等が続く中、ロシアがウクライナに軍事侵攻し、全世界的にも今後の情勢が懸念される。昨年5月には日本も豪州、カナダ、韓国、米国等の国々と共に、ロシアによるウクライナ侵略を非難する共同プレスリリースを発出した。また国内では、岸田内閣が「常に最悪の事態を想定し、国民の命と健康を守り抜く、一日も早く日本経済を回復軌道に持って行く」と語るが、地震や豪雨、豪雪等の自然災害が日本各地で多発するなど依然不安定さが増幅する時代世相と国際社会のなかで、社会福祉施設の利用児者中心の基本的、本質的な姿勢を厳守してこれまで通り、視野広く、思慮深く、足腰強く、常に一步前への積極性を失わず、且つ「温故知新」を掲げ着実に地道で継続的な社会福祉法人によるすべての人々の健やかな幸福を高める「福祉」の歩みを続けていく。とりわけ創業・創立60周年の主題である「地域のなかで地域とともに」と創業・創立65周年の主題でもある「大いなる自然のなかでいきとしいけるものともどもに、共生、共存、共栄」を、その心は創業・創立70周年の主題でもある「広く深い「和」の心を、強い愛の「絆」」で縋り合い、進めていく為の真摯な努力を続けることを改めて自覚して常に原点を直視、基本を重視すると同時に、取り組みの継続性を大切に、人々の故郷でもあるこの地域の中で福祉の拠点でもある社会福祉法人による「地域施設福祉活動」の充実、発展を、時代の要請を真摯に受けとめつつ諮っていききたい。重ねて、創業者(没後42年)達が感じたであろう一人一人そして、とりわけ次代を生き、未来を拓き、希望を持って生きる青少年・児童への福祉(幸福)の具現化の為にも、その心情を理解しつつ、貴重な事業の継承を次世代へ繋ぐ責任と誇りを強く持ち、一日一日、一步一步坂道を登る努力を尽くしたい。また、法人発祥の原点である「佐保山」を決して忘れることなく、新たな時代へと福祉のバトンをつないでいきたいという思いで「佐保川社会福祉会館」を創立75周年記念日(令和4年2月22日)に開設した。今後、これまでの福祉の拠点も守りつつ、関係者が知恵や技、力を寄せ合い新しい福祉の拠点から更なる福祉文化の灯を灯し続けたい。

.....\*

1. 創業・創立35周年の誓い(主題) 〈1982年、昭和57年〉  
「ふりかえるおもいやり、さしのべるはげまし、ともにあゆむよろこび」
1. 創業・創立35周年の決意  
「一人一心一力一業」
1. 創業・創立35周年の心  
「感謝と奉仕」

1. 4大イベント(地域交流活動)のメインテーマ  
「であいをふれあいに そしてつながりへ、友情の和 福祉の輪を豊かに  
広げよう」
1. 3C・3S(クリーン・サービス) うんどうのキャッチフレーズ  
「さわやかな汗をやさしい心で」

.....\*.....

1. 創業創立40周年のテーマ  
「明日へ真愛のメッセージ」を伝えていこう！
1. 創業創立45周年のテーマ  
「明るく、楽しく、いきいきと、ともどもに」を合言葉に！
1. 創業創立50周年のテーマ  
「伝統・創造・共生」・「目指そう 福祉文化の発信基地」
1. 創業創立60周年のテーマ  
「地域に生まれ、地域に根づき、地域に貢献」
1. 創業創立65周年のテーマ  
「大いなる自然のなか、いきとしいけるものの共生・共存・共栄」
1. 創業創立70周年のテーマ  
「夢描き、希望掲げて、明日を生き、未来を拓く」  
一広く深い「和」の心を強い愛の「絆」で縫(よ)り合い—  
「福祉(幸福)」の旗を高く掲げて共に歩む
1. 創業創立75周年のテーマ  
「原点を決して忘れず振り返りつつ、新たな時代へ福祉のバトンをつなぐ」  
“みんないっしょ！” 一共に生まれ、共に育み、共に生きる—

これらのねがいとねらいを大切に掲げ、利用児者一人一人の健やかな幸福の為に、すべての従事職員が心を寄せ、知恵を集め、技を磨き、力を合わせ、昨年度よりも想像性豊かに、創造力を高め一つでも新鮮な発想で、一步でも前進した具体的な取り組みを目指してよりよい福祉法人による施設及び事業体の運営に努力していきたい。

本年度はこれ等を踏まえ且つ、創業・創立80年に向けこれまでの活動をきびしく見直し、謙虚に、評価を加えつつ、改めて初心にかえり新たなスタートとしたい。又友好団体、グループ、実行委員会等支援して下さる方々が、又個人的なボランティアの人々が推進して下さっている地域交流事業を柱とした記念行事等も創業創立70周年事業を一つの通過点として、常に新鮮なイメージと新たな内容を検討して着実に根強く進めていきたい。

## 〔Ⅱ〕基本計画(取り組み・姿勢)

おおいなる自然とはるかなる歴史のなか、福祉にご縁の深いこの地に生まれた事業である。先人(創業・創立者)はじめ多くの人々の導きのもと、幾多の苦難を乗り越えて、当時、大戦後の一民間人による福祉の草分けともいわれ、昭和21年12月25日(昭和22年2月22日設立・登記創立)個人創業として事業開始以来、今年度は創業・創立75年目(財団法人認可72年、福祉法人認可69年)の年度となる。現在、11施設及び付設10事業所を拠点として21事業を展開。産休あけ生後57日目の0才児から利用されて100才を越える高齢者まで2,000名を超える人々が通・在所しておられる。なかには生活に困窮する母子、働く場所のない身体や知的に障害を持つ方々、あるいは高齢者の方々がおられる。ここには、それらの人々の成長の場として、働く場として、やすらぎの場として、そして自立の為の生活の場とし

での福祉施設づくりとその活動をノーマライゼーションの理念のもと誠実に推進していくなかで、真の福祉社会実現を目指して努力していきたい。ただ、一昨年突如発生した「新型コロナウイルス」の猛威により、私達の生活は一変した。これまで行ってきたイベント等も自粛せざるを得ない状況の中で、法人各施設・事業所を利用される園児・対象者の健やかな生命と幸福を守り、育むことが最優先すべき課題である。

その為に今、500名を超える役職員従事者（アルバイト等含む）等の人々が同志的な絆で「一人一心一力一業」の決意もあらたに、「感謝と奉仕」の気持ちを一層高めつつ、日進月歩する日々の取組を怠りなく遅れることなく進めていきたい。21世紀に入り、更に加速的な高齢化と少子出生傾向が続くなか、総人口減少へ転じた不安定な人口動態が危惧されるなかで、福祉、医療、教育への期待とその対応、具体的には財源の裏付け等への不安が増幅する時代となっている。

なかでも、今もっとも緊要緊迫しているのは、利用児者の直接処遇を担っている例えば保育士、介護士、看護師等の施設従事者の質量の不足が大問題であることへの意識と認識、理解がこれまでの政府、行政側に充分ではないと思われる所が最大の不安でもあった。平成27年度実施の消費税増税が具体的対応の一つとされるが、公民給与、一般企業との格差の是正から取り組む強い意思とその実行を強く求めたい。私共としても同時に多様なニーズに応える為のきめ細かな人員増が喫緊の課題であることに他言は要しない。直接的に係わる人財（材）の確保と従事者（職員）の福祉人としての一層の使命感とその意識の高揚と研修・研究・育児支援を含め福利厚生充実の強化を目指すなかで人的資源の確保と資質の向上をはかる事を第1の重点的取り組みとする。具体的アピール（スローガン）は引き続き、“健康を保ち、意識を強く、且つ教養を高めよう！”と同時に、明日へ、未来へ、継承しよう！同志と共に！！！”である。

重点的な取り組みの第2として、危機管理が問われリスクマネジメント、クライシスマネジメントが声高に問われる福祉施設の一層の清美と点検、整備をはかる事である。具体的アピール（スローガン）は、“創意を促し、工夫で築こう！”である。

重点的な取り組みの第3として情報公開はじめ、地域に根づく開かれた施設（福祉拠点）として、一層理解と認識を深め広める活動の展開である。いわばこれは施設をこれまでの受信基地から積極的にITを活用するなど発信基地へと進める発想の転換を意味するものでもある。具体的アピール（スローガン）は、“参加交流を広げ、友好を深めよう！”である。

これ等は、いずれも創業創立35周年（昭和57年）を期して未来に向っての展望のもと、地道な継続的取り組みとして推進しているものであるが、本年は更に一層根強く積極的に充実させていきたい。この運動は、1982年（昭和57年）2月7日にスタートさせた“3C・3S（3つのクリーン・サービス）うんどう”であり、“3C・3L（3つのカルチュア・ラヴ）プラン”と呼んでいるものでもある。又、このうんどうから抽出した現象で、1つは地域交流に比重を置いた活動を“4大イベント”と称し、春、夏（後援会組織でもある三者と職員親睦会等が連合して実行委員会を結成し主催）、秋（職員親睦会が主催）、冬（夏まつりと同様の組織があらたに実行委員会を結成し主催）四季それぞれに法人・施設の所在地の近くの地域に於いて地域の人々の参加と協力を得てカーニバル風のつどいとして開催しているものである。更に今1つは、財源確保に比重を置いた活動という事で、“チャリティ・アクト”推進者自ら募金活動推進へのトップに立って活動を！—“リフレッシュいちえん会”—と称し、赤い羽根募金活動協力や、耐震化を目指す寧楽の郷の建替え・再生、働く広場佐保・高円の再々生、被保護者の減少、障害者の増加傾向にもっと真摯に向き合い、ニーズを適確に捉え、再起を目指す！努力が求められている。今、現場の意識改革が一番！！問われている！！先人物故者慰霊碑保存事業継続活動などもある。尚、中、長期的課題として具体的に次の9つの充実・強化・確立への努力が求められる。

## － 1 ー 人的資源の確保・充実・強化・確立への努力

- 広く若い人材を求める…改めて養成（専門）学校、更にハローワーク、人材事業者等との連携（情報交換等）の拡充はじめ、まず処遇改善（諸手当の可能な限りの見直し等）の加速化、職員寮や駐車場の整備と負担減等 全国各地からも、外国からも…。広報活動の強化が求められている！
- 高い人材を求める…資質も処遇も向上 有資格者確保 幹部職員への登用、一例として、社会福祉主事認定講習会へ推薦 保育教諭資格等取得への支援、リピーター 再登録再活用。
- 永く人材を求める…3年5年7年10年20年…定年（満70歳から75才へ延長。）再契約、再雇用を進め実質的な定年制撤廃への努力。一例：現職最年長者 86歳

### ① 優秀職員の採用への努力

- 例示 ・ 採用の時期、方法等全般的に見直しを行う。年間を通じ各施設、各事業所で常時窓口を開く採用窓口の核となる。受験者の希望する事業所での採用試験、全国ネットで紹介、案内募集を検討、人材登録制度の再構築。
- ・ 雇用条件（パート、臨時、契約、アルバイト等職員含）の全面的見直し。
  - ・ 新学卒、既卒、中高年者（例、満70歳以上）の雇用等に再検討
  - ・ リピーター職員の再雇用促進 春秋会（退職職員会）、各施設・各事業所毎の活動強化と連携プランの実行等。

### ② 研修・研究・活動の充実

#### 1. 新人の事前研修・実習の充実

- 例示 ・ イ. 事前説明会（改訂プロジェクト使用）、就業規則等（一層丁寧な説明）、施設（福利厚生施設含む）見学紹介（レポート）クラブ活動紹介
- ロ. 現場研修（希望施設中心に）
  - ハ. 現場実習（                      ”                      ）
  - ニ. 直前合同説明会
  - ホ. 歓迎・懇談会

### ③ 現任訓練

- ・ 自己研修の見直し。  
全職員（正規、常勤・非常勤パート等職員）（有資格者中心）の賃金改訂（特に最賃の見直し）と研修の見直し
- 例示 ・ イ. 年次毎メニューの再検討  
ロ. 業務（内容・担当）毎メニューの再検討  
ハ. 3日、3週間、3か月、3年のふれあい、つながり熟成  
特に主担任（副担任）、主事・副主事等幹部候補生の位置づけ強化、主任・副主任制、又幹部職員の研修強化、処遇向上等、あるいは実行（研究）委員会（八方会、五保協等）活動の調整等について（第三者評価委員会内部委員会活動と連動した取り組み）

### ④ 健康づくり・体力づくりの充実

- 例示 ・ 毎年2回（概ね2月；8月）以上の定期検診充実の徹底、40才以上の生活習慣病予防健診充実強化、健診助成、アフターケアサービス
- ・ 毎年1回以上の体力測定の徹底
  - ・ 毎月1回の健康デーの徹底
  - ・ スポーツ、クラブ活動の奨励 ー 1つのスポーツ推進奨励ー
  - ・ インフルエンザ予防接種助成
  - ・ 給食費助成

⑤労働時間の短縮・年休70%取得目標の推進。

“NO残業！有給取得70%超”のスローガンの実行・徹底  
例示 ・ 令和2年度より採用した1か月単位の変形労働時間制（4週4休）完全実施態勢を一層スムーズに推進・確認する。

⑥定年制延長・定年後再契約（1年更新）再雇用・定着化

※但し健康（心身共に）が必須条件に変わりはない！

・一般職員 満70歳定年

（再雇用・再契約上限→幹部職員75歳、理事兼務職員85歳）

⑦退職共済システムの見直しに伴う再検討

⑧年功プラス能力評価重視の給与の検討

例示 ・ 専門資格評価、創意工夫評価、研究・研修活動評価、奨励手当の充実、人事考課システム導入検討

⑨3年5年7年10年（以降5ヶ年毎）勤続優良職員、特別顕彰システム推進

※3年勤続永年優良表彰者に一例として3日連続特別研修休暇付与。30,000円（見直しも含め）の奨励金支給等 5年、7年、10年、15年以下同様永年優良表彰者厚遇実施。

⑩研修、研究施設 確保（設置）

⑪人材バンク（登録システム）設置

退職職員の春秋会・友の会への加入促進、登録、追跡調査

⑫福利厚生、クラブ活動等の充実強化 年休（給）取得推進

- ・ 奈良市内こども園職員対象に奈良市勤労者福祉サービスセンターの積極活用
- ・ クラブ活動支援－佐保山太鼓隊、オーバーザレインボーズ、ニュープラネッツ、茶華道クラブ（カラオケ・ダンス・ゴルフ等興味あるクラブも検討中）等々
- ・ 福利厚生施設の充実－職員寮確保（多聞荘、若葉荘、城東荘、城南荘Ⅰ・Ⅱ）、研修セミナーハウス（励友館、寛朗庵、寛朗窓、小桜ホール）等の活用、駐車場確保・整備
- ・ リフレッシュハウス鳥羽・白馬利用奨励
- ・ 職員互助会（奈良地区、郡山地区）有効活用
- ・ 職員親睦会、退職職員親睦会協力・助成

## － 2 － 償還計画と財源確保その遂行への努力

① 公益事業・収益事業への取り組み・企画強化への努力。

② 後援会組織の拡充（ボランティア連絡会、OG・OB・OT会、友好倶楽部、春秋会等の拡充、各イベント実施実行委員会の組織拡充）と活動の強化へ努力。

③ 各事業の完全独立採算恒常化への努力。

④ 時代と社会のニーズに対応しつつ、償還等へも真摯に対応。

㊦授産施設（生活保護、障害福祉サービス事業所）

働く広場・佐保：全面的に改革・改善（例 クリーニング事業大規模縮小も視野に）

働く広場・高円：推進、拡充（パン等製造販売促進）の為、佐保川社会福祉会館スタートに伴いパン工房に加えカフェ、惣菜キッチン等新規事業展開も視野に

㊧母子生活支援施設

佐保山荘：移転後20年以上が経過し空調等設備の老朽化も見られる中で、入所者減少に伴う新規事業（ショートステイ）等による新たな利用者の確保

ライフィン・郡山：郡山西こども園と合築の工事も完了し、償還がスタート。入所者減少の課題解決に向け、佐保山荘と協力し措置権者訪問等も取り組んでいく。

㊨老人ホーム（軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム）

寧楽の郷：建て替え計画の具体的な検討（候補地、事業内容等についても）。財源の確保（行政・福祉医療機構との折衝含む）

矢田の郷：平成17年に開始以降18年が経過し、空調設備等の老朽化に伴う故障

等の発生。償還遂行と合わせ、備品の点検、修繕、取替等についても計画の立案。

#### ○幼保連携型認定こども園

佐保山こども園：老朽建替耐震工事での償還計画の遂行への努力

中登美こども園：奈良市より全面移管（譲）を受けた為土地の賃借料をURと契約。水道の漏水問題等の施設設備の修理等も自らの責任となる等負担増への対応。新たに隣接施設（スーパー跡地）をURより借り入れ改修・改築し学童保育、子育て支援事業に利用し、就学前から就学後の一貫した子育ての拠点になるよう努める。

佐保川こども園：佐保川社会福祉会館完成に伴い、新たな拠点として地域交流を更に深めつつ、利便性の高さをPRしつつ園児の確保を目指す。佐保山荘同様、開設より20年以上経過し、雨漏りや水道等の問題もあり、修繕等対応に苦慮している。

郡山西こども園：令和2年3月に全面建替耐震工事完了（ライフインと合築）、令和3年4月にこども園に移行、新規事業（一時保育、子育て支援事業）と合わせ償還計画の遂行への努力。地域の園等の開設により利用児の確保が難しく、受け入れ増に向け、直接処遇者の確保に努める。

郡山東こども園：令和2年4月こども園に移行。園児を確保しつつ付帯事業（一時保育、病後児保育、子育て支援事業）も円滑に運営し老朽建替耐震工事での償還計画の遂行へ努力する。

#### － 3－施設整備の改修整備と改装美化への努力

築後10年以後の毎年の中規模整備の計画的実施

20年サイクルの大型整備の計画的実施

例示 ・ 郡山東、郡山西・ライフインの施設整備が完了し、続いて、寧楽の郷の整備計画及実施計画検討。又、佐保川社会福祉会館完成に伴う福祉医療機構等への償還も新たにスタート。

・ その他耐用年数、ニーズに応じた施設の整備改修・改装工事の検討

#### － 4－地域福祉の拠点・交流の場“ウェルフェアスクエア”としての施設運営への努力

##### ①奈良市施設、郡山施設事業促進協議委員会設置・継続・推進

〈従事協議会を格上げ。奈良市・郡山市法人二分割等検討・協議。〉

##### ②全施設(奈良市、郡山市)相談事業の推進

例示 ・ 24時間365日を視野にした施設運営

・ 保育時間の延長、安全確保の対応病後児等への対応等々

・ 保育園での乳幼児・育児相談活動の推進

・ 全施設でのボランティア（個人、グループ、中・高・大学校・生徒・学生）受け入れと登録システム強化等組織化の推進

・ 定期的行事他施設活用解放への努力とあわせて安全対策システム、マニュアルの再構築と徹底から実践訓練の実施

・ 佐保山荘、ライフイン・郡山の情報交換強化！

#### － 5－OB会・後援会など組織の拡充強化の努力

・ 友の会組織の充実強化を図る。支部活動（拠点活動を活性化）の推進

例示 ・ 各施設ごとに春秋会（OB会、OG会）、友好倶楽部、ボランティア連絡会等の組織強化をはかるよう努力する。

#### － 6－国内福祉施設との友好交流活動の推進

例示 ・ 名古屋厚生会館 ・ 三重県上野市社会福祉事業団

#### － 7－国際交流活動の推進への努力

（コロナ禍の増幅等で融資、延期等のイベントが広がるが…）

①中国 西安、鎮江、北京、上海、大連等幼児園等との友好交流活動の推進、再開検討。台湾との友好交流も視野に入れて。

②デンマーク コペンハーゲン幼児園はじめ太鼓隊・オーバーザと各国各都市幼児施設訪問交流の推進（例示）絵画造形、音楽、表現、体育、通信等の交流視察充実

- ③アジア社会福祉事業従事者研修活動への参加、協力推進
- ④アジア福祉教育財団交流支援活動協力
- ⑤全社協国際社会福祉基金（委員会）への協力
- ⑥国際友好交流推進委員会（F&C）の活動の推進
- － 8 －創業記念活動・継続推進
  - ① S. I. P. P. U（シェイプアップ・イメージアップ・パーソンパワーアップ）作戦の推進
- － 9 －経済再建促進会議・ワーキングチームの活動の継続。
  - “ダイエットしてスリムでルネサンス”が合言葉。
  - “リフレッシュいちえん会活動”の継続的推進！
  - “ムダ・ムリ”省き積極的運営を目指す。
  - 歳入10%～30%up、歳出10%～30%off。
  - ※特に平成22年決算から続く累積赤字解消への抜本的取り組み(働く広場)として、人事異動（経理業務の複数担当化含め）、更に専門会計事務所等の協力強化！等。
  - 他施設も什器備品等の点検・整備にも重点。
- － 1 0 －生きとし生けるものの共生、共存、共栄をはかるプランとアクションをそれぞれの事業単位で始める、進める、広げる。みどりが生命を育む。小さな花園、小さな森づくりを1ランクupで充実させる。
- － 1 1 －赤い羽根共同募金活動への継続協力
  - 窓口：奈良県共同募金会
- － 1 2 －アジアの子ども達への支援活動協力
  - 窓口：全国社会福祉協議会こども福祉基金会
- － 1 3 －犯罪被害者支援ネットワーク活動への積極的継続的協力
  - 窓口：なら犯罪被害者支援センター
- － 1 4 －東日本大震災等自然災害被災支援活動への継続的協力
  - 窓口：日本赤十字社奈良県支部
- － 1 5 －近畿・県内措置権者、市町村への協力要請推進 プロジェクトチーム発足、継続的活動強化（母子生活支援施設、高齢者施設、生活困窮者施設等中心に）

※総じて全世界的パンデミックに陥っているコロナ禍のなか、注意を重ねて慎重に機会を持つ姿勢で取り組む。またマスクの着用を個人の判断に任せたり、コロナの第5類へ引き下げ等、コロナに対する姿勢が変化しているので、行政・団体等と情報交換を行い、法人全体で方向性を定め対応していく。